

## 回顧

関 沢 房 豊

その昔関東大震災の起りし頃、私は和田岬神戸三菱造船所に勤務時代であります。その頃三菱神戸造船所では毎年数隻位L型と称する潜水艦を建造並びに艤装を致してをりましたが、其れが改良を目的とし且つ一層優秀なるものを設計計画すべく三菱当造船所及び三菱電機製作所における当該の技術者の一団を組成してL型潜水艦建造の本家本元なる英国ヴィッカース会社に新型を研究さすべく数名を派遣する事に成り、私も諸先輩の驥尾に附して渡英致した次第でありました。然る処私が英国のサウザンプトン港に到着の前日頃船上にて関東に大震災が起りたるニュースを突如耳にしました。東京横浜地方は引続き大火災のため人命家屋家財の多量焼失せりとの噂であった。当時倫敦に於ても日本との通信しばらく途絶する有様となり、其他種々の理由にてL型潜水艦の新規計画も一時取り止めとなり我等の団員は夫々専門に応じて諸外国工場を見学して適宜内地へ帰還する方針となりたり。

その頃岩崎彦弥太氏は既に英国に御留学中にて倫敦に居られましたが、或日閑沢と呼ばれて第一回のHI盃は今回の東京震災にて焼失したらしい、就ては更に新しきものを此の地に求めて寄贈せんと思うから閑沢も商店迄同行して然るべきものを選択する様にとのお話しでありましたが、私達の仲間の乗船が明日に差し迫りおり遺憾乍らその暇なく私は御同行を御辞退して寄贈者に甚だ失礼致した次第でありましたが、彦弥太氏は単身で求められたらしく美事なる銀盃が小生の許迄届けられたるは其の後数刻でした。荷造中の小生の荷物に入れて故国に持ち帰りました。HI倫敦盃と名称が出来ましたのは斯かる次第に依るものであります。

爾来年移り人更り幾星霜三菱関係各社の同好の若き士の集りの中心と相成り友情の絆と相成りました。